

# 時事新報

第三千二百八十七號  
明治廿五年三月十一日 金曜日  
明治廿五年三月十三日 (壬寅)  
日 出 午 前 五 時 五 十 九 分  
日 入 午 後 五 時 三 十 三 分  
月 入 午 前 四 時 三 十 分  
月 出 午 後 四 時 三 十 分  
年 入 午 前 三 月 十 九 日  
年 出 午 後 四 月 十 九 日  
(西曆一千八百九十二年)

(本報代價) (可認省信遞)

明治二十五年三月十一日

(銀二金價定)

時事新報定價  
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價運送料廣告料は左の如し  
一月二角 二月四角 三月六角 六月一元 一年二元  
○時事新報は直轄二重縣ニモハ右定價ノ外ニ二月十三日ノ郵券料ヲ加ス  
時事新報廣告料(前定)  
一行 一付 一十三日 一十一日 一十五日

### 本社(寄稿)付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を撰登するより各社同一の記事を掲ぐるものと算らるるなり時事新報社は社員並に通信員を以て斯類の社に通信を依頼せずとも其間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信する方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も算からざれば本社に記申論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向て發送あらんとを請ふ

### 時事新報

#### 植民省の設置を望む

近年來我國にては海外植民の說次第に盛んにして朝野の間に之を論ずるもの少ならず現任外務大臣の如きは最も熱心にして種々の計畫もありと云ふ抑も今日の有様を見るに國內の人口は年々増殖して既に四千萬人の上に達し資本乏しく事業起らずして無数の勞力者は唯手を束ねて益々貧窮に陥るの情態なれば之を救済するの方法是海外の移住を奨励保護して一方には窮民をして國外に衣食の道をせしめ一方には國內に居残る人民に餘裕を與へ其堵に安んぜしむるの外に手段ある可らず即ち海外の植民論は我輩の兼てより主張する所にして反對の議論なきのみか近來ますます其論の盛なるを見るに至りしを誠可喜可哀次第なれども扱ふれを實際に行ふの手段に至りてはなかく容易の事に非ず現に外務省には移民課の設ありて移民の事を管理し又移民地の探検等に就ても兼てより當局者に計畫ありと云ひ且又布哇、ニューカレドニアの如き既に實行の成績もなきに非ざれども元來海外植民の事たる重大の事件にして一時一局部に發する偶然の計畫を以て功を見る可きに非ず布哇、ニューカレドニア等に僅々の出稼人を出したるが如きは單に率先の一例を示したるまでにして其成績固より見るに足る可きものに非ざれば我輩は今日に當り政府が大に海外植民の長計を定め國力を以て之を擁護保護し漸次に實効を收めんとすを希望するものなり即ち其方法は今の内務大臣等の十省に聯立して更に植民省と名ぐる一省を設け其長官は國務大臣として内閣に列せしむるか又は事務獎勵の爲め特に榮譽の地位として勳章を推して之に當らしむるなども妙なる可く何れにしても當然たる一の政廳として十分の地位權限を與へ専ら植民の事務を管理して第一着の要は海外諸方に植民地を探究し日本人の移住に適

### 雜報

#### ○土帝日本人に厚し

一月十三日土京君士但丁堡に於て  
時事新報特派員 野田正太郎  
人若し大和魂を以て東の大國と爲さば余は小島根性を以て西の大國と爲すに躊躇せざる可し秀でしは富士の嶽となり開いては萬葉の櫻となり千古不滅の靈無二の大和魂が事に觸れ物に應じて我々日本人の光明を添へると共に二千年來鎖國の肥料を以て養成せる小島根性も亦深く日本人の肺肝に蟠まりて國運の進歩を妨ぐるを悔しけれ、西洋の人は世界を家として世界の樂を樂めども日本人は日本を家として兄弟喧嘩に苦めり、西洋の人は世界を市場として足に任せて駆け廻れども日本人の人は四疊半に茶を立てて近來不景氣と唱てり、西洋の人は世界を庭として五大洲の名山大水を遊びしれ共四千萬の日本人は二萬五千方里の孤島に籠籠りて沖に漕出すを知らず(一方里千七百八十人許故らに斯く急言厲色するにあらぬなり見よ西洋人は我々の奈長許でもするが如く亞非利加無人の沙漠を横行せり見よ西洋人は我々の船遊山でもするが如く風船に乗じて大西洋を飛び越さんせり彼等の大膽冒險精神は此世界を物足らずとして今や空中へまでも駈上らんとする世の中に、依然たる日本人の小島根性は只夢中になりて何所までも小島の中の名利ならで否かと云ふ、魯言勵色せざらんぞ欲するも得べからざる次第にふそわれ此の頃國會解散と相成るまでには操々の魂膽もわりしならん解散となりて怒る者もあらん喜ぶ者もあらん兎角一時の大混亂なりしならんれども其混亂は何の甲斐もなき一家の騒動にして他家の冷笑を買ふに止まるのみ歐洲邊にては日本の國會もマア此邊で御仕舞ならん自らも信じ人へも公言する者多しとかや國會解散の責は政府の國會が知らざれども他家より一口に日本人民不慣れの證據として危ぶむの外なし畢竟斯る内輪縁めは國運進歩の大目的に於て一點の益も無き事なれども西洋の犬生れながら家の中を歩行き日本の犬生れながら操の上の上らざるが如く二千年來の遺物小島根性にて一種の根性の存する限は日本の威名天下に振ふふと断して叶ふ可からず思ふて此に至れば大地震はナヤ無事の養生を殺して此小島根性を粉砕せざりしやどの愚痴も出るなり

希冀知らず、本題の外に附せぬ讀者は外國國を思ふの愚痴を見て之を恕せよ借又是も亦小島根性の餘波として見る可しと申すは餘の儲に非ず開國以來流石に日本人の歐米を廻り回するもの甚多しと雖も人ふを變れ同じ處を幾遍となく廻回するのみにして評判好からざる此比耳其なごには來り訪ふ者とても無し假令ひ之もあるも五六日の滞在に土耳其には郵便局無しなごも途方も無き觀察して去るに過ぎず巴里の花を見た序で土耳其の風雨に觸るるも妙なれ歐米人の足踏者本を誰が來よかしと望み居る所へ元警保局長貴族院議員清浦重吾并同行加地鈔太郎の兩氏歐洲遊歴の途次顯然としてハルカン半島の南端に來れり

何を申すも兩艘去て後只一人取り殘されたる淋しき身の上とて覺ふるに物なき遭遇の事は茲に記すの要なし相も變らず日本人に厚き土耳其皇等は早くも兩氏の

爲めに客館を用意せ供するなご優遇する三等加地氏(メロ、せり兎にも角にも余に意らす清浦氏の滯留に當り現今の形勢より土其現今の形勢より清浦氏は到着の第一に未廣の扇を以て隨み帝は侍従を以て

且珍奇なる口々に手依て賣買の價なると共に日本商人の出來得べき優待を賣せしむ可くりして漸く此言を爲すの

右は皇帝より直に侍従を感ずると共に日本の信意を空くせざる當地に於て歐洲物に割合好きは如何に因て之を知り其茶、陶器、漆器を始め貨類孰れも相應に買入少なければ日本

の爲めには一新市場を相違なきが如く土耳其は富國に非ず左にかりに廣しはふ可からずと雖も

制國に來て新利源をらんぞ欲する者は土其主君の一言に因て得を熟考し進退をす所ありて可なりか念の爲め申し置

余は來る五月初迄は在東京の豫定なり日本商人の常地に非ずるに周旋の勢は願に非ず

清浦氏の一行は二二日希臘阿府府へ歸朝の途に就きぬ其旅其夜より又

### 官報

○大藏省告示第九號  
岐阜本金庫所屬空振支金庫ヲ本月十五日羽栗部空振可字下新町へ移ス  
明治二十五年三月十日  
大藏大臣伯耆松方正義

○通信省告示第五十四號  
本月十六日ヨリ京都郵便電信局今出川郵便支局ニ電信取扱ヲ開始シ京都郵便電信局今出川支局ト改稱ス  
明治二十五年三月十日  
通信大臣伯耆藤原象二郎